安全データシート

この安全データシート は以下の要件に準拠し ている :
JIS Z 7253:2019, 日本

改訂日 07-4-2026 **改訂番号** 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 Chromium AA Standard: 1000 µg/mL Cr in 5% HCl [500ml bottle]

製品コード 5190-8276

登録番号 情報なし

安全データシート の供給者の詳細

供給者

アジレント ・テクノ ロジー株式会社
住所 〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1

電話番号 +81-42-660-3111

緊急連絡電話番号
CHEMTREC®: 0800-300-5842

電子メールアド レス pdl-msds_author@agilent.com

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 分析化学研究所用の試薬および基準。 この製品は研究開発専用です。

推奨さ れない用途 推奨用途以外では使用し ないでく ださい

2. 危険有害性の要約

GHS 分類
日本政府によるGHS分類

金属腐食性化学品	区分 1
急性毒性(経口)	区分に該当し ない
急性毒性(経皮)	区分に該当し ない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当し ない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じ ん／ミ スト	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介し た影響	授乳に対する又は授乳を介し た影響は

	ない
特定標的臓器毒性(単回ばく 露)	区分 2
区分 2 呼吸器。	
特定標的臓器毒性(反復ばく 露)	区分 2
区分 2 呼吸器、 歯。	
誤えん有害性	区分に該当し ない
水生環境有害性 - 急性	区分 3
水生環境有害性 - 慢性	区分に該当し ない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素



注意喚起語 危険

危険有害性情報

日本政府によるGHS分類
吸入すると 有害
皮膚刺激
強い眼刺激
吸入するとアレ ルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を 起こすおそれ
アレ ルギー性皮膚反応を 起こすおそれ
水生生物に有害
臓器の障害のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく 露による臓器の障害のおそれ
金属腐食のおそれ
以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器。
長期にわたる、又は反復ばく 露による以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器、 歯。

注意書き

安全対策

- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること
- 取扱い後は顔、手、露出し た皮膚をよく 洗うこと
- 【 換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること
- 汚染さ れた作業衣は作業場から出さ ないこと
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること
- 粉じ んを吸入し ないこと
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をし ないこと
- 環境への放出を避けること
- 他の容器に移し 替えないこと

応急措置
• ばく 露又はばく 露の懸念がある場合: 医師に連絡すること
• 気分が悪いときは, 医師の診察／手当てを受けること
• 眼に入った場合: 水で数分間注意深く 洗うこと。次にコンタクト レンズを着用し ていて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
• 眼の刺激が続く 場合: 医師の診察／手当てを受けること
• 皮膚に付着し た場合: 多量の水と 石けん(鹸)で洗うこと
• 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
• 皮膚刺激又は発し ん(疹)が生じ た場合: 医師の診察／手当てを受けること
• 吸入し た場合: 空気の新鮮な場所に移し 、呼吸し やすい姿勢で休息さ せること
• 気分が悪いときは医師に連絡すること
• 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること
• 物的被害を防止するためにも 流出し たものを吸収すること
保管
• 施錠し て保管すること
• 耐腐食性／耐腐食性内張り のある容器に保管すること
廃棄
• 内容物、容器を国際、国、都道府県、及び市町村の規則に従って廃棄すること

他の危険有害性

情報なし 。

3. 組成及び成分情報

化学物質･混合物の区別 混合物

化学的性質 水溶液

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
塩化水素	7647-01-0	1.85	既存	(1)-215	既存	(1)-215
クロム	7440-47-3	0.1	対象外	-	情報なし	

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当し ない

労働安全衛生法
通知対象物質
法第５７条の２、施行令第１８条の２ 第１ 号、第２ 号別表第９ 及び第３ 号別表第３

表示対象物質

法第5 7 条第1 項、施行令第1 8 条第1 号、第2 号別表第9 及び第3 号別表第3

化学名又は一般名	CAS番号	区分	政令番号	含有率 %
塩化水素	7647-01-0	表示対象物質	9-098	1.85

毒物及び劇物取締法 該当し ない

4. 応急措置

一般的なアド バイス 治療を行う 医師にこのSDSを示すこと 。

吸入し た場合 空気の新鮮な場所に移すこと 。アレ ルギー性呼吸器反応を起こすおそれ。 呼吸が停止し ている場合には、人工呼吸を行うこと 。直ちに医師の手当てを受けること 。 皮膚に直接触れないよう にすること 。口対口の人工呼吸を行う 際はバリ アを使用すること 。

皮膚に付着し た場合 直ちに石けん(鹸)と 多量の水で少なく とも15分間洗い落とすこと 。アレ ルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 症状が続く 場合には、医師に連絡すること 。

眼に入っ た場合 直ちに少なく とも15分間まぶた(瞼)の裏側まで 多量の水で洗うこと 。コンタクト レンズを着用し ていて容易に外せる場合は外すこと 。その後も洗浄を続けること 。 洗っている間は眼を大きく 広げたままにすること 。 受傷部をこすらないこと 。 刺激が生じ て長引く ときは、医師の手当てをう けること 。 症状が続く 場合には、医師に連絡すること 。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと 。 意識のない者には、何も口から 与えてはならない。 無理に吐かせないこと 。 アレ ルギー性反応を起こ すおそれ。 直ちに医師の診察／手当てを受けること 。

急性症状及び遅発性症状の最も 重要な徴候症状 吸入するとアレ ルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こ すおそれ。 咳及び／又は喘鳴。 掻痒感。 発疹。 じんま疹。 アレ ルギー性反応の症状には、発疹、掻痒感、腫脹、呼吸困難、手及び足の刺すよう な痛み、めまい、意識もう ろう 、胸痛、筋肉痛又は潮紅が含まれる場合がある。 紅斑(皮膚の発赤)。 眼の発赤および流涙を引き起こ すおそれがある。 灼熱感。 呼吸困難。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 皮膚、眼又は衣類と の接触を避けること 。 医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること 。 皮膚に直接触れないよう にすること 。口対口の人工呼吸を行う 際はバリ アを使用すること 。 指定された個人用保護具を着用すること 。 詳細については項目8を参照。 蒸気又はミ スト を吸い込まないよう にすること 。

医師に対する特別な注意事項 過敏な人に感作を引き起こ すおそれがある。 症状に応じ て治療すること 。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 現地の状況及び周囲環境に適し た消火方法を用いること 。

使ってはならない消火剤	高圧水で漏出物を散乱さ せないこと。
特有の危険有害性	製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。 吸入により 感作を引き起こすことがある。 皮膚接触により 感作を引き起こすことがある。
特有の消火方法 **大規模火災**	水噴霧でド ラムを冷却すること。 警告: 放水では十分な消火の効果が得ら れない場合がある。
消火活動を行う 者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う 者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用し なければならない。 個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	皮膚、眼又は衣類と の接触を避けること。 十分換気さ れているか確認すること。 指定された個人用保護具を着用すること。 人員を安全な区域に退避さ せること。 人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。 蒸気又はミ スト を吸い込まないよう にすること。
緊急対応を行う 者のための保護具	項目8で推奨さ れている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	安全に対処できるなら ば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
封じ込め方法	安全に対処できるなら ば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
浄化方法	せき止めること。 不活性吸収材料で吸収すること。 回収し て適切に表示さ れた容器に移すこと。 汚染さ れた表面を十分に浄化すること。
二次災害の防止策	汚染さ れた物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	項目7及び項目8に記載さ れている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	産業衛生安全対策規範に従って取り 扱うこと。 粉じん／煙／ガス／ミ スト ／蒸気／スプレーを吸入し ないこと。 皮膚、眼又は衣類と の接触を避けること。 十分換気さ れているか確認すること。 換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をし ないこと。 汚染さ れた衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 保護眼鏡、不浸透性の保護衣、手袋及び／又は長靴を着用すること。
衛生対策	皮膚、眼又は衣類と の接触を避けること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 休憩前及び作業後に手を洗うこと。 適切な手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること。 機器、作業区域及び衣類を定期的にクリ ーニングすることが推奨さ れる。 汚染さ

れた衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。

保管

安全な保管条件

特定の保管方法や輸送時の温度条件については、製造者証明書を参照すること。 保証書内に他の指示がない限り は、もとの容器で保管すること。 容器を密閉し て乾燥し た涼しく 換気のよい場所に保管すること。 湿気を遮断すること。 施錠し て保管すること。 子供の手の届かない場所に保管すること。 他の物質から隔離し て保管すること。

8. ばく 露防止及び保護措置

設備対策

シャワー
洗眼場
換気システム。

許容濃度

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
塩化水素 7647-01-0	Ceiling: 2 ppm Ceiling: 3.0 mg/m^3	-	Ceiling: 2 ppm
クロム 7440-47-3	TWA: 0.5 mg/m^3;	-	TWA: 0.5 mg/m^3 inhalable particulate matter

生物学的許容値

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	ACGIH
クロム 7440-47-3		0.7 µg/L - urine (total Chromium) - end of shift at end of workweek

環境ばく 露防止

いかなる下水管の中、地面上又はいかなる水域中にも侵入さ せないこと。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸用保護具は、この製品の化学的性質、危険有害性及び使用法、ならびに現地当局の安全要件に従って選択し 、使用し なければならない。

手の保護具

ネオプレン™製の保護手袋を着用すること。 使用される保護手袋はEC指令89/686/EECの仕様および関連する標準(EU) 2016/425。 適切な手袋を着用すること。 不浸透性手袋。

眼及び／又は顔面の保護具

眼に入らないよう にする。 サイド シールド 付き保護眼鏡(又はゴーグル)を着用すること。 適切な眼保護具を使用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。 長袖の衣類。 不浸透性衣類。 耐薬品性エプロン。 不浸透

性の保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	液体
物理状態	液体
色	無色
臭い	無臭
臭いのしきい値	情報なし

特性	**値**	**備考 • 方法**
融点／凝固点	0 °C / 32 °F	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	100 °C / 212 °F	情報なし
可燃性		情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界		
爆発又は可燃の下限界		
引火点		情報なし
蒸発速度		情報なし
自然発火点		情報なし
分解温度	100 °C / 212 °F	情報なし
pH		情報なし
粘度		
動粘性率		情報なし
動的粘度		情報なし
水への溶解度		情報なし
溶解度		情報なし
n ーオクタノ ール／水分配係数(log値)		情報なし
蒸気圧	23 hPa	@ 20°C
相対ガス密度		情報なし
相対密度	0.99821 g/cm3 at 20 °C	情報なし
粒子特性		
粒径		該当し ない
粒径分布		該当し ない

その他の情報

爆発性	情報なし
酸化性	情報なし

10: 安定性及び反応性

反応性 情報なし 。

化学的安定性 通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性 通常の条件下で安定。

避けるべき条件 長期間にわたる空気又は湿気へのばく 露。 過剰な熱。

混触危険物質 酸化剤。 強酸。 強塩基。

危険有害な分解生成物 提供さ れた情報に基づき 知見なし 。

爆発データ
静電放電に対する感度 なし 。
機械的衝撃に対する感度 なし 。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

混合物のATE値は下記のとおり 算出さ れている

ATEmix(経口)	12,864.90 mg/kg
ATEmix(経皮)	99,999.00 mg/kg
ATEmix(吸入 −ガス)	99,999.00 ppm
ATEmix(吸入 −粉じん／ミ スト)	2.71 mg/L
ATEmix(吸入 −蒸気)	99,999.00 mg/L

毒性の数値尺度 - 成分情報

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
塩化水素	238 - 277 mg/kg (Rat)	> 5010 mg/kg (Rabbit)	= 1.68 mg/L (Rat) 1 h

略語及び頭文字
Rat: ラット
Rabbit: ウサギ

症状 アレルギー性反応の症状には、発疹、掻痒感、腫脹、呼吸困難、手及び足の刺すような痛み、めまい、意識もうろう 、胸痛、筋肉痛又は潮紅が含まれる場合がある。 咳及び／又は喘鳴。 掻痒感。 発疹。 じんま疹。 発赤。 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。

安全データシート

この安全データシート は以下の要件に準拠し ている :
JIS Z 7253:2019, 日本

5190-8276 - Chromium AA Standard: 1000 µg/mL Cr in 5% HCl [500ml bottle]

改訂日 07-4-2026

製品情報

経口	この化学物質又は混合物の特定試験データ はない。「 吸入」の項目に記載さ れている追加的影響を 生じ るおそれ。 飲み込むと 胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を 引き起こ すおそれがある。
吸入	この化学物質又は混合物の特定試験データ はない。 過敏な 人に感作を 引き起こ すおそれがある。（成分に基づく ）。 吸入すると 有害。
皮膚接触	この化学物質又は混合物の特定試験データ はない。 反復又は長期にわたるばく 露による皮膚への接触は、敏感な 人にアレ ルギー性反応を 生じ るおそれがある。（成分に基づく ）。 皮膚接触により 感作を 引き起こ すこと がある。 皮膚刺激。
眼接触	この化学物質又は混合物の特定試験データ はない。 強い眼刺激。（成分に基づく ）。 発赤、掻痒感、及び痛みを 引き起こ すおそれがある。
皮膚腐食性／刺激性	成分に対し て利用可能なデータ に基づく 分類。 皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	成分に対し て利用可能なデータ に基づく 分類。 強い眼刺激。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	吸入するとアレ ルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を 起こ すおそれ。 アレ ルギー性皮膚反応を 起こ すおそれ。
生殖細胞変異原性	利用可能なデータ に基づき 、分類基準を 満たさ ない。 分類できない。
発がん性	利用可能なデータ に基づき 、分類基準を 満たさ ない。 分類できない。

下表は各機関が何ら かの成分を 発がん性とし て記載し ているかを 示す。

化学名又は一般名	日本政府によるGHS分類	IARC
クロム 7440-47-3		Group 3

凡例

国際がん研究機関
グループ3ーヒト の発がん性に関し て分類できない物質

生殖毒性	利用可能なデータ に基づき 、分類基準を 満たさ ない。 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく 露)	臓器の障害のおそれ。

以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器。

特定標的臓器毒性(反復ばく 露) 長期にわたる、又は反復ばく 露による臓器の障害のおそれ。

長期にわたる、又は反復ばく 露による以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器、 歯。

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。 区分に該当し ない。

12. 環境影響情報

生態毒性 水生生物に有害。

残留性･分解性 情報なし 。

生態蓄積性 情報なし 。

他の有害影響 情報なし 。

この製品は、既知の内分泌かく 乱物質又は内分泌かく 乱が疑われる物質を一切含有し ていない。

化学名又は一般名	EU－REACH(1907/2006)－第59 条(1)－高懸念物質の認可対象候補物質リ スト	EU－REACH(1907/2006)－内分泌かく 乱作用評価対象物質リ スト	内分泌かく 乱の可能性
塩化水素	－	－	－
クロム	－	－	－

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。 環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空容器を再利用し ないこと 。

14. 輸送上の注意

国際規制

IMDG 規制対象外

国連番号又はID番号	UN3264
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid)
説明	UN3264, その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid), 8, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	8
容器等級	III
海洋汚染物質に該当するかの特定	NP F-A S-B
特別条項	223, 274

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコード によるばら 積み輸送さ れる 液体物質
情報なし

ADR

国連番号又はID番号	UN3264
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid)
説明	UN3264, その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid), 8, III, (E)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	8
容器等級	III
特別条項	274

IATA

国連番号又はID番号	UN3264
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid)
説明	UN3264, その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid), 8, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	8
容器等級	III
特別条項	A3, A803
ERG コード	8L

国内規則
項目15を 参照。 消防法、毒劇法、高圧ガス保安法、船舶安全法、航空法に該当する場合はそれぞれの規定に従う 。

日本

国連番号又はID番号	UN3264
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid)
説明	UN3264, その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの) (Hydrochloric acid), 8, III
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	8
容器等級	III

15. 適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当し ない
労働安全衛生法

製造禁止物質等
該当し ない
製造許可物質等
該当し ない
特定化学物質等(特化則)
特定化学物質(第3類物質)ー労働安全衛生法施行令別表第3(第6条、第9-3条、第21条、第22条関係、及び特定化学物質障害予防規則)
有機溶剤中毒予防規則
該当し ない
危険物
該当し ない
鉛中毒予防規則
該当し ない
四アルキル鉛中毒予防規則
該当し ない
特別管理物質
該当し ない
表示対象物質
法第５７条第１項、施行令第１８条第１号、第２号別表第９及び第３号別表第３
通知対象物質
法第５７条の２、施行令第１８条の２第１号、第２号別表第９及び第３号別表第３
労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度
該当し ない。
安衛則第３２６条に基づく 腐食性液体
塩化水素
安衛法−皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく 不浸透性の保護具等の使用義務物質
特化則等
安衛法 −濃度基準値設定物質
クロム 0.5 mg/m³
有害物ばく 露作業報告
該当し ない
安衛則５７７ ー２ に基づく がん原性物質
該当し ない
強変異原性物質
該当し ない

毒物及び劇物取締法
該当し ない
高圧ガス保安法
該当し ない
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当し ない

化学兵器禁止法
該当し ない

国際インベント リー

TSCA	米国インベント リー(TSCA): インベント リーに記載。 40 CFR 720.36の目的上、この製品は研究開発(R&D)目的の使用に限定さ れる。
DSL／NDSL	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
EINECS／ELINCS	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
化審法インベント リ	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
IECSC	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
KECL	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
PICCS	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
AIIC	インベント リー準拠状況については供給者まで問い合わせること。

凡例:
TSCA - 米国有害物質規制法セクション8(b)、インベント リー
DSL/NDSL - カナダ国内物質リスト ／非国内物質リスト
EINECS/ELINCS - 欧州既存商業化学物質インベント リー／欧州新規届出商業用化学物質リスト
ENCS - 化審法既存物質
IECSC - 中国現有化学物質名録
KECL - 韓国既存化学物質インベント リー
PICCS - フィリピン化学品･化学物質インベント リー
AICS - オースト ラリア化学物質インベント リー

16. その他の情報

改訂日	07-4-2026
改訂記録	SDSの余白にある記号(*)は、その行が改訂さ れたことを示す。

安全データシート で使用さ れている略語及び頭文字のキー又は凡例
凡例 8: ばく 露防止及び保護措置

TWA	TW A(時間加重平均)	天井値	最大限界値
Sk*	経皮吸収	+	感作性物質

本SDSの編集に使用し た主要参考文献及びデータ 源
米国毒性物質疾病登録庁(Agency for Toxic Substances and Disease Registry, ATSDR)
米国環境保護庁ChemViewデータ ベース
欧州化学品局
欧州食品安全機関(EFSA)
米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)
急性ばく 露ガイド ラインレベル(AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
米国環境保護庁高生産量化学物質

安全データシート

この安全データシート は以下の要件に準拠し ている :
JIS Z 7253:2019, 日本

5190-8276 - Chromium AA Standard: 1000 µg/mL Cr in 5% HCl [500ml bottle]

改訂日 07-4-2026

フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース(IUCLID)
日本政府によるGHS分類
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
NIOSH(米国労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド 化学物質分類・情報データベース(CCID)
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)の環境、保健及び安全に関する出版物
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)高生産量化学物質プログラム
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)スクリーニング情報データセット
国際連合世界保健機関(World Health Organization, WHO)

免責事項
このデーターシート は作成時における最新情報に基づいて作成されています。しかしながら記載されている内容は情報提供であり、その正確性あるいは完全性に関していかなる保証をなすものではありません。。

安全データシート のおわり